

## 第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

### 報告書資料 一般-84

学校名・団体名	有田市立田鶴小学校
HPアドレス	<a href="http://aridasi-kyoi.sakura.ne.jp/tazu/">http://aridasi-kyoi.sakura.ne.jp/tazu/</a>
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	地域を巻き込んだ防災教育の実践
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>本校は海を目前に控えた学校である。来る大地震による大津波が予想されているが、地域の人々の防災意識は決して高くない。児童も同様である。そのために、昨年度おこなった「地域を巻き込んだ防災教育」に係る地域の方々との避難道の整備作業と避難訓練は地域の防災について考えるきっかけになり一定の成果があった。津波だけでなく、水害や台風などを含めた災害についての意識を継続させるためにも、さらに高めるためにも、子ども達だけでなく地域を巻き込んだ防災教育実践の継続を行って行く必要がある。</p>	

## 「地域を巻き込んだ防災教育の実践」

有田市立田鶴小学校

### 1 実践への経過

地域や児童の防災意識の高揚を目的に、昨年度より新たな学校行事として取り組み始めた事業である。同じ地域には、『稲村の火』で有名な広川町がある。広川町は、歴史的にも何度も津波の被害を受けているが、本校は広川町のある湯浅湾とは違う北側に位置し、有田川に面しており、海辺にある漁村でありながら津波の被害が広川町に比べて少なかった地域である。よって、同じ有田地方でありながら津波への防災意識の低い地域でもある。このような中で防災教育を行っても、保護者・地域との温度差のため、効果は上がらないと思い地域を巻き込んだ防災教育の実践を考えるに至った。また、本地域は台風や水害に過去大きな被害にあっており、津波も含めた自然災害への防災意識を児童に持たせることが大事であると考え、学校裏山の避難道の整備作業を中心に、昨年度より本実践を始めた。

### 2 地域を巻き込んだ防災教育の実践

#### (1) 実践1 「学校裏山の避難道の整備」(平成27年11月28日)

50年くらい前まで通学路として使われていた山畑の道を、昨年、地域の方々(保護者及び自治会・婦人会・消防団等の地域各種団体を中心とするの方々)と草刈りをし整備した。長年使われずにいたため草や藪で通れない道であったが何とか通れるように整備した。しかし、1年たつと、再び草や藪がしげり通りにくい箇所があったので、そこを重点的に草刈りをし、案内表示や避難訓練の時に場所が分かるようにポイント表示を設置した。



#### (2) 実践2 「災害時における心のケアについて」(現職教育)

(平成28年1月20日)

本校は、地域の災害発生時の避難場所になっている。災害発生時には避難所運営のサポートとともに子ども達のケアを本校職員が行わなければならない。また、必然的に避難者(地域住民)への対応も行わなければならない。避難所に心の専門家がいても、最前線に関わる者として、災害時における心のケアについてある程度の基礎知識を持っていることが望ましい。講師に迎えた上野氏は、臨床心理士として4年前の紀伊半島大水害をはじめ県内の緊急対応を要する現場に入り、心のケアの実践を行ってきた方である。その経験とともに基本的なことを職員が知っておくべきことを学んだ。



#### (3) 実践3 「7・18水害を学ぶ」(平成28年3月1日)

昭和28年7月18日に発生した、大水害は県政史上最悪の災害であると言われている。有田川でも大勢の犠牲者を出した大災害であった。その水害について、6年生が総合学習で取り上げ、そのまとめとして現地学習を行った。市内で最も被害の大きかった地域のお寺の元住職さんから当時の様子をお聞きし、実際に現地を歩き、最大水位の碑を見学し、水害について学んだ。



#### (4) 実践4 「整備した避難道を使った避難訓練」(平成28年2月8日)

地域の方々との避難訓練を予定していた日(1月18日)が雨天のため、中止となり、児童だけの避難訓練となった。訓練では、トランシーバーを持った職員が先に走って、避難道の状況を確認し(道が地震のために崩れていないか等)、「大丈夫」の連絡を受けてから避難道を登った。確認するまでの時間・最後尾の児童が各ポイントを通過する時間を計り、来年度の訓練の参考資料とした。



### 3 成果と課題

昨年に続く事業で、2年目となり、学校と地域の行事になりつつある。この「地域を巻き込んだ防災教育の実践」は、「学校裏山の避難道の整備」を通じて、保護者・地域の方々とともに、防災についての意識を高めるだけでなく、学校と地域の繋がりをさらに強めることにもなっていると感じている。また、自治会から避難道の危険箇所へ手すり等を設置するための工事予算を市へ請求してくれたなど、地域の避難道としても整備されようとしている。

7・18水害の現地学習は、子ども達にとってとても興味深く意味のある学習となった。残念ながら、学校行事の関係で3学期になり、時間的な問題(6年生で卒業式の練習等のため)から発表の時間がとれなかったことが課題として残った。元住職さんのお話はとても分かりやすいお話だったので、来年度は学校へ来ていただいて、全校児童の前でお話をさせていただこうと思っている。また、避難訓練は当初、昨年同様、地域の方々と一緒にやる予定であった。周知のための地域への回覧(回覧板)も行ったが、予備日を設けていなかった(雨天中止)。せつかくの避難訓練で、地域の方々を行う意味は十分にあり、来年度は必ず予備日を設定して行うことを考えている。